

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査結果について

—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 114校 中学校 52校 特別支援学校 1校（小学部・中学部）

小学校 第6学年 約11,980名 中学校 第3学年 約8,990名

○児童生徒に対する調査

〈**教科に関する調査**〉 小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学・英語

国語、算数・数学、英語は、それぞれ次の①と②を一体的に出題。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

〈**質問紙調査**〉 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

本年度の主な調査項目・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

○調査実施日 平成31年4月18日（木）

○教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

平成31（令和元）年度	小学校調査			
	国語		算数	
	14問		14問	
川崎市	正答数（問）	正答率（％）	正答数（問）	正答率（％）
	9.0	64	9.8	70
全国	8.9	63.8	9.3	66.6

平成31（令和元）年度	中学校調査					
	国語		数学		英語	
	10問		16問		21問	
川崎市	正答数（問）	正答率（％）	正答数（問）	正答率（％）	正答数（問）	正答率（％）
	7.4	74	9.6	60	12.4	59
全国	7.3	72.8	9.6	59.8	11.8	56.0

※英語調査については「話すこと」調査を除きます。 ※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

「全体の傾向」については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。（△＝上回った主な設問 ▼＝下回った主な設問）

「領域ごとの結果の概要」については、領域ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。（◇：比較的できている設問 ◆：課題があると考えられる設問）

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（3領域1事項）に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 調べたことを【報告する文章】で、資料をどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。

■ 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】に、疑問に思ったことに対する答えになるように考えて書く。

■ 【インタビューの様子】の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。

■ ことわざの使い方の例として適切なものを選択する。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことでは72.3%、書くことでは54.9%、読むことでは82.5%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では53.4%である。書くこと、読むことの領域において全国を上回り、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において全国を下回った。

・設問ごとの傾向

全14問中8問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問はない。

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

◇ 3一 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問として適切なものを選ぶ設問において、目的に応じて質問を工夫することについては、相当数の児童ができている。(81.7%、+0.4)

◆ 3三 インタビューした相手の思いや考えに着目して心に残ったことを書く設問において、話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめることについては、課題がある。(65.6%、-2.6)

書くこと

◇ 1一 調べたことを報告する文章の、2つの資料が用いられている目的を選ぶ設問において、図表やグラフなどを用いる目的を捉えることについては、比較的できている。(72.6%、+1.4)

◆ 1三 調べたことを報告する文章の□に当てはまるように、「調査の内容と結果」から分かったことをまとめて書く設問において、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことについては、課題がある。(29.0%、+0.2)

読むこと

◇ 2一(1) 食べ物の保存についてまとめた【ノートの一部】に入る「疑問に思ったこと」に対する答えとして適切なものを選ぶ設問において、目的に応じて、文章の内容を的

確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことについては、相当数の児童ができています。(83.6%、+2.9)

- ◇ 2 二 知りたいことを調べるために、選んだ本の【目次の一部】から読むページとして適切なものを選ぶ問題において、目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことについては、相当数の児童ができています。(86.5%、-2.0)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◆ 1 四 (1) 文章中の平仮名を漢字で書き直す設問において、漢字を文の中で正しく使うことについては、課題がある。
- ア 調査のたいしょう (42.3%、+0.4)
 - イ 友達にかぎらず (66.1%、-3.3)
 - ウ かんしんをもってもらいたい (40.0%、+4.4)
- ◆ 1 四 (2) 報告する文章の中の一文を、接続語「そこで」を使って二文に分けて書き直す設問において、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについては、課題がある。(46.1%、-1.7)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと ○話し手の意図を捉えながら聞き、考えをまとめる指導の充実

話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話の内容と自分の経験や考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして考えをまとめることになる。そのため、目的を明確にもって聞くことや自分のもつ情報と関連付けて聞くこと、目的に応じて一番聞きたかったことを中心に考えをまとめられるようにしていくことなどが重要である。また、聞く必然性を感じられる話題設定や、聞いたことの成果を生かす場の設定も大切である。

書くこと ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の充実

例えば、調査の報告を目的とする文章は調査結果を基に自分の考えを書くことになる。その際、誰に何を報告するのかという目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて考えをまとめるのかということを考えて書くように指導することが重要である。また、そこで考えている自分の考えと調査の目的とがずれないように、書き進める中で見直していくよう指導することも必要である。授業においては、自分の書いた文章が目的や意図に即したものになっているか、読み手に適切に伝わるかという視点で、見直しや検討をする場面を設定していくことが大切である。

読むこと ○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導の充実

調べる学習の際には図鑑や事典等を活用する機会が多くあるが、その利用については、目的に応じて様々な種類のものを選んで読むことが効果的である。その際、目次や索引を利用して読むことができるように指導することが重要である。目次や索引の活用は、選書に役立つ他、本や文章全体から必要な情報を見付けるための効果的な読み方につながる。目次や索引の特徴を理解し、自分の目的や状況に応じて使い分けることができるように指導していくことが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○接続語を使って、わかりやすい文章を書く指導の充実

分かりやすい文章にする方法の一つとして、一文が長く伝わりにくい場合は適当な長さの複数の文に分けて書くことが挙げられる。その際、文節や文などをつなぐ働きをもつ接続語を適切に用いることで、前後の文の意味のつながりを明確にすることができる。授業においては、文章を書く様々な機会を捉え、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに、接続語を使って文を分けて書く指導を工夫することなどが大切である。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領における、「数と計算」、「量と計測」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する。
- 残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する。
 - 長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ。
 - 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と計算では66.5%、量と測定では58.3%、図形では77.0%、数量関係では71.3%である。全ての領域において全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

算数では全14問中13問で全国平均を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △ 1 (3) 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く(50.5%、+6.6)
- △ 2 (3) 二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く(57.9%、+5.8)
- △ 3 (2) 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く(37.3%、+6.2)

○領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇ 3 (1) 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することは、比較的できている。(85.4%、+3.6)
- ◆ 3 (2) 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述することについては、課題がある。(37.3%、+6.2)
- ◆ 3 (4) リボンを0.6m買ったときの代金が180円で、このリボンの1m分の代金を求める式である $180 \div 0.6$ の式をさらに発展的に考える設問において、示された除法の式の意味を理解していることについては、課題がある。(48.9%、+1.9)

量と測定

- ◆ 1 (3) 示された図形の面積の求め方を解釈し、面積を求める別の式から求め方を読み取り、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述することについては、課題がある。
(50.5%、+6.6)
- ◆ 4 (3) 示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することについては、課題がある。(66.7%、+4.1)

図形

- ◇ 1 (1) 基本的な平面図形である台形について正しいものを選ぶ設問について、台形の意味を理解することについては、相当数の児童ができていない。(91.2%、-1.9)

- ◆ 1 (2) 図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することのできる図形を選ぶ設問について、図形の性質や構成要素に着目することについては、課題がある。(62.8%、+2.5)

数量関係

- ◆ 2 (3) 市全体の水の使用量のグラフと市の人口のグラフとの関係に着目して一人あたりの水の使用量について当てはまるものを選び理由を記述する設問において、二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて、それを記述することについては、課題がある。(57.9%、+5.8)
- ◆ 2 (4) 洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるための $6 + 0.5 \times 2$ の式を求める設問において、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることについては、課題がある。(64.2%、+4.1)
- ◇ 4 (1) 乗り物券を買う順番が来るまでの時間を知るために必要な、伴って変わる二つの数量をみいだすことについては、比較的できている。(86.2%、+3.5)

○授業改善に向けて

数と計算

○数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるようにする指導の充実
 計算をする際には、その計算が確実にできるとともに、必要に応じて、数の相対的な大きさを捉えたり、一つの数をほかの数の積としてみたりするなど、数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるようにすることが重要である。さらに、そのために必要に応じて、それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが大切である。

量と測定

○図形の構成について見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明することができるようにする指導の充実

図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすることが重要である。その際、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明することができるようにすることが大切である。なお、L字型の図形や凸の形、凹の形をした図形の面積や体積の求め方を考える場面で、図形と式とを関連付け、面積や体積の求め方について説明し合う活動も考えられる。

図形

○図形の性質や構成要素に着目し、図形を観察・構成することができるようにする指導の充実

図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めることができるようにすることが重要である。その際、色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。

数量関係

○資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりすることができるようにする指導の充実

日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが重要である。

○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（3領域1事項）に基づき、全体を視野に入れながら中心적으로取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。

■ 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く。

■ 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文としての下書きに「魅力」の具体例を書き加える。

■ 話の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことでは 72.2%、書くことでは 82.4%、読むことでは 73.2%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では 67.2%である。話すこと・聞くことと読むことにおいて全国を上回り、書くことと伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では全国を下回った。

・設問ごとの傾向

全 10 問中 8 問で全国を上回った。全国との差が 5 ポイント以上あった設問はない。

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

◇ 2 一 話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選ぶ設問において、話合いの話題や方向を捉えることについては、相当数の生徒ができています。
(82.3%、+1.9)

◆ 2 三 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えをまとめる設問において、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことについては、課題がある。(62.4%、+2.0)

書くこと

◇ 3 一 意見文の下書きに加える言葉として適切なものを選ぶ設問において、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することについては、相当数の生徒ができています。
(87.9%、+0.5)

◇ 3 二 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える設問において、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くことについては、比較的できています。(77.0%、-0.8)

読むこと

◇ 1 三 掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く設問において、文章に表れているものの見方や考え方に対し自分の考えをもつことについては、相当数の生徒ができています。(91.8%、+0.6)

◆ 1 二 文章中で述べられている「弁当の魅力」として適切なものを選ぶ設問において、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることについては、課題がある。
(62.4%、+0.9)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ 4 話の一部を省いた表現に対する説明として適切なものを選ぶ設問において、省いた表現の文章中での適切な活用の仕方を理解することについては、比較的できている。
(79.6%、+0.9)
- ◆ 1 四 封筒で郵送するために投稿先の名前と住所を書く設問において、封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くことについては、課題がある。
(54.8%、-2.0)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫

話し合いをする際に、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが重要である。その際、必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるように指導することが考えられる。また、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導することが大切である。人の話を聞きながら、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理するように指導することなども大切である。

書くこと

○目的や意図に応じて相手にわかりやすく書く指導の工夫

授業においては、例えば、課題に沿って文章や図表などから必要な情報を取り上げ、それを根拠として考えを書くなどの学習活動が考えられる。その際、自分の考えの根拠として用いる情報が適切であるかどうか検討したり、自分の考えとどのようなつながりがあるのかが分かるように記述したりするよう指導することが重要である。また、問題や課題などについて述べる段落、集めた材料などについて分析する段落、それらを基に考えや意見を述べる段落など、段落の役割を考えて文章を構成するように指導することも大切である。

読むこと

○文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫

文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を相互に関連付けて読むように指導する必要がある。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて、検討するなどの学習活動が考えられる。目的に応じ、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係をj考えて読むように指導することも大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○字形を整え、文字の大きさ、配列などについて注意して書く指導の工夫

手紙などにおいて、基本的な形式に基づき文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くよう指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むことにつながる。字形を整え、配列などに注意して書くことを身に付けるためには、毛筆を使用する学習と硬筆を使用する学習との割合を実態に即し適切に設定することが大切である。また、書写の能力を学習や生活に役立てようとするような態度を育てることも大切である。授業や日常の生活の中で、ノートや届け出の書類、ポスターや掲示物、手紙など、様々な書式において形式や内容に留意し、適切な字形や書体で書くように指導していくことが考えられる。

○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ a と b が正の整数のとき四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。
 ■ 証明で用いられている三角形の合同条件を書く。
 ■ 図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ。
 ■ 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。
 ■ 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。
 ■ 四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と式では64.3%、図形では73.1%、関数では40.4%、資料の活用では、56.3%である。数と式、図形において全国を上回り、関数において全国を下回った。資料の活用においては、全国と同程度であった。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

数学では全16問中11問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- ▼1 a と b が正の整数のとき四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。
 (55.1%、-7.1)

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◆1 四則計算の可能性について考察する設問において、四則計算の結果の特徴を的確に捉え、数の集合と四則計算の可能性について理解することについては、課題がある。
 (55.1%、-7.1)
- ◆9(2) 連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる説明を完成する設問において、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについては、課題がある。(62.2%、+2.5)

図形

- ◇7(2) 正方形ABCDで成り立つ性質が平行四辺形ABCDに変えたときに、予想が成り立たないことを示すことができる理由を説明することについては、比較的できている。
 (78.7%、+1.5)
- ◆7(3) 正方形と平行四辺形の性質を考察する場面において、統合的・発展的に考察し、新たな事柄を見だし説明することについては、課題がある。(54.4%、+1.1)

関数

- ◆4 関数を用いて事象を捉え考察する場面において、反比例の表から x と y の関係を式で表すことについては、課題がある。(45.9%、-3.0)
- ◆6(2) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその年数を表やグラフから求める方法を説明する設問において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、課題がある。(35.2%、+0.5)

資料の活用

- ◇ 5 確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、簡単な場合について、確率を求めることについては、比較的できている。(73.2%、+0.4)
- ◆ 8 (3) 平日1日当たりの読書時間のデータと休日1日当たりの読書時間のデータからにおいて、半数以上の生徒の読書時間の傾向に着目した検討をすることにおいて、問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきか判断することについては、課題がある。(56.1%、+2.5)
- ◆ 8 (2) 表やヒストグラムから資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、課題がある。(39.3%、-1.5)

○授業改善に向けて

数と式

○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実することが大切である。

図形

○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する活動の充実

ある結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実させることが大切である。その際、成り立つ事柄について、その前提を変えたとき、同じ結論が成り立つかどうかを検討するなどして、同じ結論が成り立つための前提を考えるといった、統合的・発展的に考える場面を設定することが考えられる。

関数

○事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「使い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

資料の活用

○データの分布の傾向を読み取り、判断することを通して、統計的に問題解決する活動の充実

日常生活や社会の事象における問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの分布の傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させることが大切である。

中学校 外国語

○調査問題の趣旨・内容

学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動をバランスよく出題している。

- (例) ■ 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。
- まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。
 - 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。
 - 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる。
 - まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる。
 - まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。
 - 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
 - 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、「聞くこと」では70.7%、「読むこと」では58.3%、「書くこと」では49.7%である。3つの領域（「話すこと」は参考値のため除く）すべてで全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

全21問中19問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △1(3) 外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。(77.8%、+5.5)
- △9(2)①② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。(①79.0%、+5.4 ②38.8%、+9.9)
- △9(3)②③ 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。
(②39.7%、+6.8 ③44.6%、+7.2)

○領域ごとの結果の概要

聞くこと

- ◇1(2) 教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する設問において、教室英語を理解して、情報を正確に聞き取れることは、相当数の生徒ができています。(91.0%、+2.4)
- ◇2 イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える設問において、まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することは、比較的できています。(75.6%、+3.8)
- ◇3 天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する設問において、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することは、相当数の生徒ができています。(82.9%、+0.9)
- ◆4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く設問において、聞いて把握した内容について、適切に応じることについて課題がある。(11.2%、+3.6)

読むこと

- ◇5(1) ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する設問において、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取れることは、相当数の生徒ができています。(80.6%、+1.2)

- ◇ 5 (3) 月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する設問において、日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることは、比較的できている。(75.9%、+2.8)
- ◆ 7 チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、聞き手が最も伝えたい内容を選択する設問において、まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することに課題がある。(37.7%、+4.9)
- ◆ 8 食料問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く設問において、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見を捉えることに課題がある。(13.7%、+2.8)

書くこと

- ◇ 9 (1) ① 文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する設問において、文の中で適切に接続詞を用いることは、相当数の生徒ができています。(80.3%、+0.4)
- ◆ 9 (3) ①② 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く設問において、与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。(①49.2%、-4.3 ②39.7%、+6.8)
- ◆ 10 学校を表す2つのピクトグラムを比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く設問において、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書くことに課題がある。(2.4%、+0.6)

○授業改善に向けて

聞くこと

○聞いて把握した内容について、適切に応じる指導の充実

聞く活動を単なる内容理解に留めることなく、聞いた後に適切に応じる活動を繰り返し行うことが必要である。そのためには、聞く活動の目的・場面・状況などを明確にし、どのような応答があり得るかを考えさせながら、聞く活動を話す・書く活動に結び付けていくことが大切である。

読むこと

○まとまりのある文章を読んで大切な部分を読み取る指導の充実

説明文などの大切な部分を捉えさせるには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるか判断する力を身に付ける必要がある。教科書本文を1文1文日本語に訳していくだけの指導ではなく、文章の大まかな内容を捉えさせ、書き手が最も伝えたい部分の英文に下線を引かせるなどの活動の工夫を繰り返し行うことが大切である。

○読んで把握した内容について、自分の考えなどを話したり書いたりするために行う「読むこと」の指導の充実

読む活動を単なる内容理解に留めることなく、読んだ後にその内容に対する自分の意見や考えなどを話したり書いたりして、適切に応じる活動を繰り返し行うことが必要である。そのためには、読む活動の目的・場面・状況などを明確にし、読む活動を話す・書く活動と結び付けながら行う統合的な言語活動を日頃より行っていくことが大切である。

書くこと

○語や文法事項等を理解して正しく書く指導の充実

特定の文法事項や表現を場面から切り離して指導するのではなく、目的・場面・状況のある言語活動において、既習のさまざまな文法事項や表現を活用させて文を書くことを繰り返し行っていくことが大切である。また生徒の誤りについて生徒自身に考えさせることも必要である。

○考え、気持などを整理し、まとまりのある文章を書く指導の充実

まとまりのある文章を書くためには、文と文のつながりに注意をはらい、全体として一貫性のある文章を書くことが必要である。そのためには、メモやマッピングなどを用いて自分の考えや気持ちを整理し、文章の構成や接続詞の用法などを意識させた上で、書いていく言語活動を繰り返し行っていくことが大切である。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

〈学習に対する興味や授業の理解度〉 国語

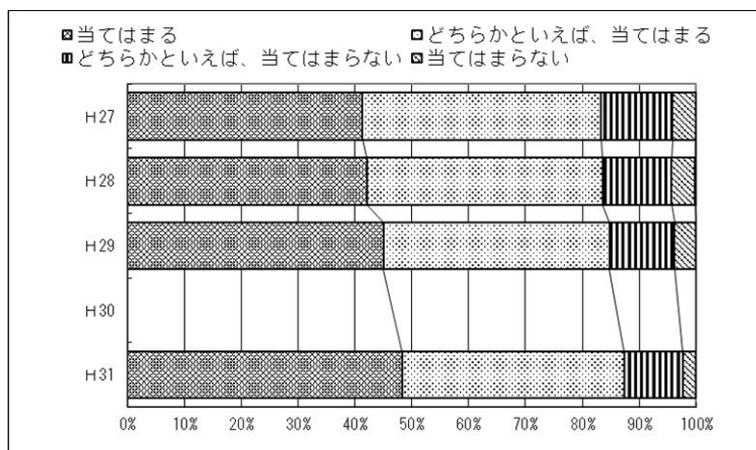
【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	84.9%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	64.2%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	93.0%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	91.2%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	77.6%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	61.7%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	91.0%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	88.0%

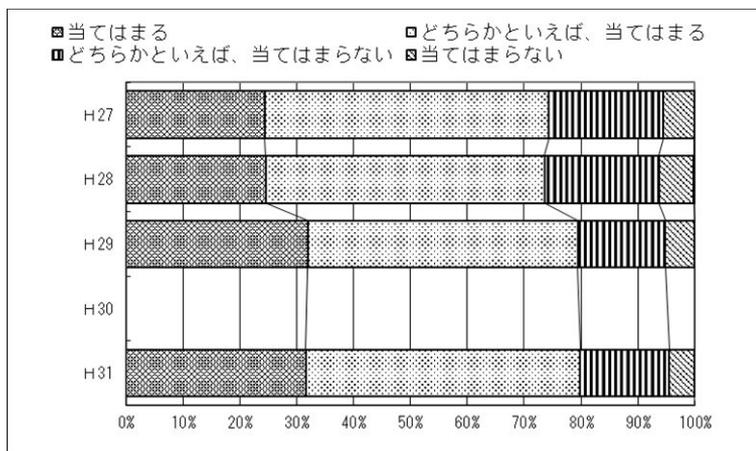
小学校 国語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、小学校、中学校ともに、「国語の授業の内容がよく分かる」「国語の勉強は好き」「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」のいずれの項目においても全国を上回った。

平成 27 年度と比較すると、小学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」が 4.0 ポイント高くなった。それ以外の項目についてもすべて高くなっている。中学校では「国語の授業の内容がよく分かる」が 5.6 ポイント、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」が 6.6 ポイント高くなった。それ以外の項目もすべて高くなっている。

中学校 国語の授業の内容がよく分かる



今後も「分かる授業」の実現に向けて言語活動の質の向上を図り、授業改善に取り組むことが必要である。また、引き続き、児童生徒が国語を学ぶ意義や言葉を扱うことよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

〈学習に対する関心・意欲・態度〉

算数・数学

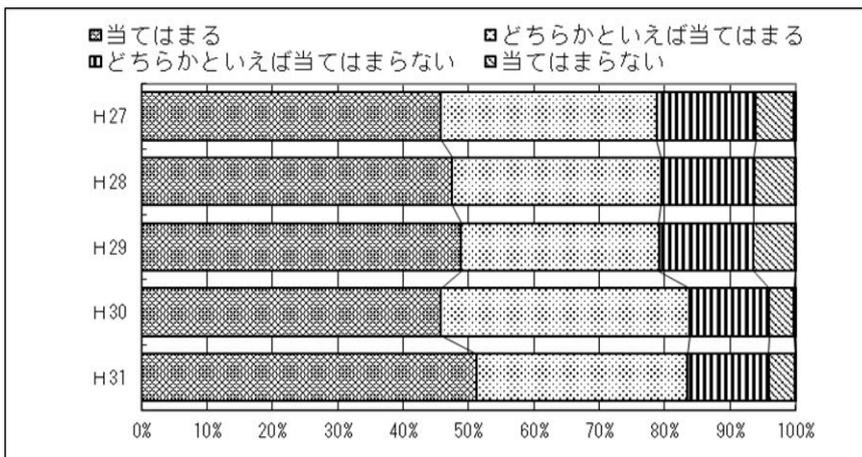
【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	83.5%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	68.6%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	93.7%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	92.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	73.9%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	57.9%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	84.2%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	76.2%

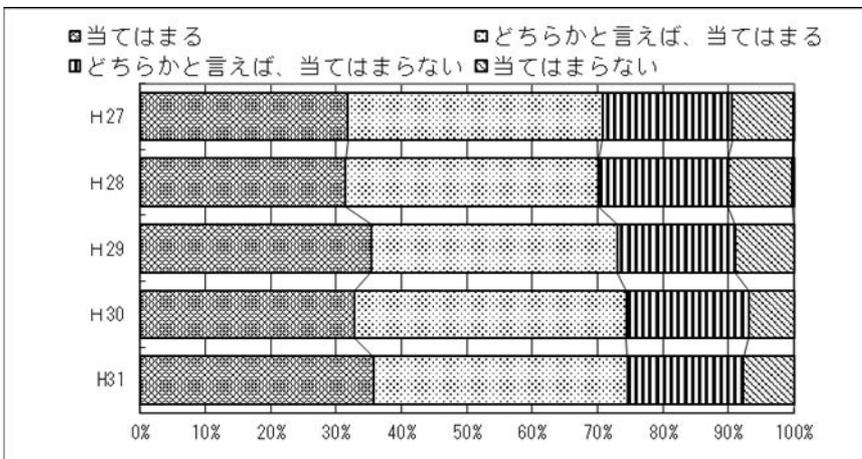
小学校 算数の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、小学校では、「算数の勉強は好き」「算数の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」においては全国を上回り、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」「数学の勉強は好き」において全国を上回った。

平成 27 年度と比較すると、小学校では、「算数の授業の内容がよく分かる。」において、4.6 ポイント高くなった。また、「算数の勉強が好き」においては、5.4 ポイント高くなっている。同様に、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において3.9ポイント、「数学の勉強は好き」において 4.3 ポイント高くなった。「社会にでたときに役に立つ」においては 5.7 ポイント高くなっている。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる



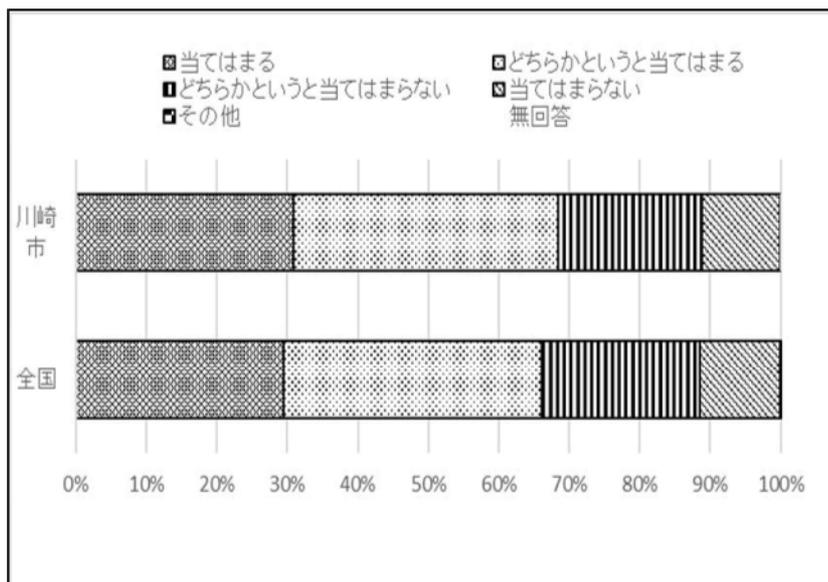
今後とも、小中学校ともに「分かる授業」づくりを継続して進めるとともに、中学校では「授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ」と思えるような、授業づくりを継続して進めていく必要がある。

《学習に対する関心・意欲・態度》

英語

質問項目	H21	H28	H29	H30	H31	全国
英語の授業の内容がよく分かる。	—	—	—	—	68.4%	66.0%
英語の勉強は好き。	—	—	—	—	58.2%	56.0%
英語の勉強は大切だと思う。	—	—	—	—	87.8%	85.4%
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	—	—	—	—	88.4%	85.4%

中学校 英語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、「英語の授業の内容がよく分かる」「英語の勉強は好き」「英語の勉強は大切だと思う」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」のいずれの項目においても全国を上回った。

今後も「分かる授業」を実現するために、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図るとともに、生徒が英語を学ぶ意義や英語によるコミュニケーションの楽しさを実感しながらより主体的に学べるよう、授業改善に取り組んでいくことが大切である。

＜参考＞

平成30年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査

(小学5年生、中学校2年生で実施。英語のみ中学校2年生で実施)

・国語の授業の内容がよく分かる。	小学校5年生 92.6%	中学校2年生 85.3%
・国語の勉強は好き。	小学校5年生 71.2%	中学校2年生 64.0%
・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	小学校5年生 94.1%	中学校2年生 91.8%
・算数(数学)の授業の内容がよく分かる。	小学校5年生 85.5%	中学校2年生 74.6%
・算数(数学)の勉強は好き。	小学校5年生 71.5%	中学校2年生 59.0%
・算数(数学)の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う。	小学校5年生 96.0%	中学校2年生 79.5%
・英語の授業の内容がよく分かる。		中学校2年生 69.7%
・英語の勉強は好き。		中学校2年生 58.4%
・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。		中学校2年生 91.4%

《規範意識、自己有用感等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	81.2%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	83.8%
学校のきまりを守っている。	91.4%	91.8%	92.5%	91.4%	93.5%	92.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	97.1%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	95.2%
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	95.5%	94.8%	96.0%	—	95.8%	95.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	77.7%	78.0%	78.8%	—	79.3%	79.0%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	74.1%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	70.5%
学校の規則を守っている。	93.1%	93.0%	93.9%	93.6%	95.7%	96.2%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.1%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.3%
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	93.8%	94.5%	94.8%	—	93.8%	93.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	67.2%	69.4%	71.7%	—	70.2%	70.3%

「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校、中学校ともに上回っているが、平成30年度と比較すると小学校は4.2ポイント、中学校は5.0ポイント低くなった。しかし、平成27年度との比較では小学校は5.7ポイント、中学校は7.4ポイント高くなっている。「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は、全国と比較すると下回っているが、平成27年度からの経年でみると小学校は80%台前半、中学校は60%後半を推移していて、大きな変化は見られない。一方「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童生徒は、肯定的な回答が90%を超えている。

今後も児童生徒が様々な役割を担い、取り組む機会を数多く設定し、結果だけでなく過程の努力についても一人一人のよさや可能性を認め励ますことが大切である。また、学級活動や学校生活においては、自分自身を見つめ、将来の生き方について考えられる活動を進めていくことが必要である。

<参考>

平成30年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査（小学5年生、中学校2年生で実施）

・自分にはよいところがあると思う。	小学校5年生 81.4%	中学校2年生 71.0%
・将来の夢をもっている。	小学校5年生 87.2%	中学校2年生 66.2%
・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校5年生 78.6%	中学校2年生 64.8%

《学習習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	71.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	66.1%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	50.4%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	69.8%

《ICTを活用した学習状況》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
★5年生にまでに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用している。	—	—	—	—	26.0%	30.6%
★授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う。	—	—	—	—	84.4%	86.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
★1, 2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用している。	—	—	—	—	40.1%	30.6%
★授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う。	—	—	—	—	71.8%	78.3%

★新規項目

「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は2.3ポイント、中学校は4.1ポイント下回った。平成27年度と比較すると、小学校では8.6ポイント上回り、中学校はほぼ同程度であった。「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」と回答した児童生徒は、平成27年度と比較すると、小学校で5.0ポイント、中学校で2.4ポイント高くなった。

自分で学習の計画を立て、継続的に学習に向かうには、自分の目標と学びを関連付けることや、授業の後にもっと知りたい、調べたいと思えるようになることなどが大切である。学習指導の工夫を通して、家庭学習の充実につなげることが必要である。

ICTを活用した学習状況(新設項目)のこれらの質問項目について、「5年生(1, 2年生)までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用している」と回答している児童生徒は、全国と比較すると小学校で4.6ポイント下回ったが、中学校では9.5ポイント上回った。「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校で2.1ポイント下回り、中学校で6.5ポイント下回った。今後、ICTを活用した授業改善の工夫が必要である。

<参考>

平成30年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査(小学5年生、中学校2年生で実施)

・学校のある日、家で1時間以上勉強している。 小学校5年生 47.5% 中学校2年生 43.2%

《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	77.7%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	62.5%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	74.1%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	65.7%
★授業で学んだことをほかの学習に生かしている。	—	—	—	—	85.0%	82.8%
★学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	73.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
1, 2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	74.8%
1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	55.8%
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	72.8%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	61.5%
★授業で学んだことをほかの学習に生かしている。	—	—	—	—	76.6%	74.9%
★学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	65.6%

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は6.1ポイント、中学校は7.1ポイント上回っている。「自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校、中学校ともに上回り、平成27年度と比較すると小学校は8.2ポイント、中学校は9.2ポイント高くなっている。総合的な学習の時間についての質問では、全国と比較すると小学校で8.5ポイント、中学校で7.0ポイント上回っている。

各教科等の授業の中で自分の考えを工夫して発表する学習や、課題を立て情報を整理して発表する探究的な学習などが継続的に行われている様子がうかがえる。今後も引き続き、課題の解決を目指した主体的な学習や、自分の考えを深めたり広げたりできるような対話的な活動の充実させていくことが必要である。

《基本的生活習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	95.3%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.4%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	91.6%
家の人と学校での出来事について話を する。	79.9%	79.3%	78.1%	81.6%	77.8%	77.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	93.1%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	78.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	92.8%
家の人と学校での出来事について話を する。	72.1%	71.8%	70.8%	73.2%	72.8%	76.4%

基本的生活習慣のこれらの質問項目について平成27年度と比較すると、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学校は2.8ポイント、中学校は2.5ポイント高くなっている。また、「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒は、小学校は2.1ポイント低くなり、中学校はほぼ同程度である。

基本的生活習慣等については、経年では今のところ大きな変化が見られないが、今後も注視し、児童生徒を取り巻く環境の変化を捉えていくことが大切である。

＜地域や社会に関わる活動の実施状況等＞

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	68.0%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	45.0%	—	42.7%	52.5%	55.8%	54.5%
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。	—	—	72.2%	—	70.3%	68.6%
★日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。	—	—	—	—	75.0%	76.1%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	50.6%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	27.5%	—	29.6%	35.7%	35.4%	39.4%
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。	—	—	65.3%	—	63.8%	62.4%
★日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。	—	—	—	—	54.0%	59.3%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は11.0ポイント、中学校は10.7ポイント下回っている。平成27年度と比較すると、小学校は3.9ポイント、中学校は5.6ポイント高くなっている。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校は1.3ポイント上回り、中学校は4.0ポイント下回っているが、平成27年度と比較すると、小学校で10.8ポイント、中学校で7.9ポイント高くなっている。

「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」（新規項目）と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校は1.1ポイント、中学校は5.3ポイント下回った。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童生徒が増加している傾向が見られる。今後も、児童生徒が地域の行事へ参加する意義などを理解し、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を高めていくように指導の充実を図ることが大切である。

＜参考＞

平成30年度実施 川崎市立小中学校学習状況調査（小学5年生、中学校2年生で実施）

・朝食を毎日食べている。 小学校5年生 94.5% 中学校2年生 90.1%